



生徒指導部から

==未来の花を咲かせるために==

2026年1月30日

季節は二十四節気の「立春」に向かいます。一年の運気を方向付ける大切な日です。その前日は「節分」、豆まきで邪気を払い、恵方巻きを食べる習慣もすっかり根付きました。今年「歳徳神(としとくじん)」がいらっしゃる恵方は南南東だそうです。暦の上では春とはいえ、その年の最低気温を記録するような厳しい日があるのもこの時期です。ただ、路傍に目をやれば、緑が見え始め、早咲きの品種では、梅花の蕾が日に日に大きくなり、花を咲かせるのを今か今かと待っているようです。この寒さ、厳しさを耐えて咲くからこそ、可憐で凛々しい梅花に心を奪われるのかもしれませんが。咲こうとしている蕾に自分の姿を映して、前向きな気持ちで春を待ちましょう。くれぐれも自分の花を咲かせる準備、努力を怠ることがないように。

梅の花 楓の葉

一貫唯唯諾

(一貫す、唯唯の諾)

従来鉄石肝

(従来、鉄石の肝)

貧居生傑士

(貧居、傑士を生じ)

勲業顕多難

(勲業多難に顕わる)

耐雪梅花麗

(雪に耐えて梅花麗しく)

経霜紅葉丹

(霜を経て楓葉丹し)

如能識天意

(如し、能く、天意を識らば、)

豈敢自謀安

(豈敢て、自から安きを謀らんや)



この漢詩は、西郷隆盛が、イギリス留学する甥へ宛てたものです。その意味は次のとおりです。

ひとたび「よし、やろう」と心に誓ったことは、何があろうとも貫き通さなければならない。そのためには、鉄のように固い意志が必要である。

貧しい暮らしが偉大な人物を生み出し、

立派な業績は、多くの困難を乗り越えてこそ生まれるのである。

初春の雪の冷たさを耐え忍んだ梅の花が麗しく咲いて芳香を放つように、

晩秋の冷たい霜の厳しさを凌いで楓の葉が赤く色づくように、

人はつらいことや苦しいことを耐え忍んでこそ、大きく成長するのだ。

お前が、もしこのような天の道理を知っているなら、

どうして我が身の安楽ばかりを求めるような生き方ができるだろうか。

(いや、できないはずだ)。

これは、苦難を乗り越えることの大切さや忍耐や努力が報われた後の美しさを象徴しています。少し古い話になりますが、「雪に耐えて梅花麗し」は、広島東洋カープやMLBのドジャース、ヤンキースで活躍した黒田博樹投手の座右の銘ということでも有名です。ヤンキース時代に感銘を受けたジーターは、「この詩はわれわれにあてはまる。良いときも悪いときも、常に変わず汗を流し続けることが大切だし、頑張れば必ずその報いがある。」と語り、当時のジラルディ監督は梅花の写真をPCの壁紙にしたそうです。近くでは、お隣の鹿児島女子高校の建学の精神としても用いられています。



3年生は、春から新しい生活がスタートします。慣れない仕事、見知らぬ土地、一人暮らしなどいろんな初めてが重なって、大きなストレスを抱えることになるかもしれません。2年生はいよいよ進路を決める学年が始まります。1年生も進級したそれぞれの系での新しい人間関係のスタートです。初めは、つらいことや苦しいことに悩む日もあるかも知れません。

そんなとき、梅の花(耐雪梅花麗)と楓の紅葉(経霜紅葉丹)を思い出して、今の苦労は自分の成長のために必要なことだと、前を向いて、乗り越えてほしいと思います。